

お知らせ「論文募集」

特集「ゲノム情報学」の論文公募
Vol.10, No.4(2001年1月刊行予定)

情報知識学会誌編集委員 菅原 秀明、国沢 隆

1. 主旨

本年6月(2000年), ヒトゲノムの全解説の概要(ドラフト)ができ上がったことが発表されました。ヒトを始めとする、いろいろな生物の全ゲノム塩基配列を決定しようとするゲノムプロジェクトは、10年ぐらい前にスタートし、現在では感染症の原因となる微生物を中心として、30種以上の全ゲノム塩基配列が決定されています。こうして決定された配列データは、だれもが利用できるようにデータベース化され公開されています。ここで注目すべきは、さまざまな情報論的手法が、配列決定やデータベース化の過程は言うまでもなく、決定された配列からの遺伝子の同定、遺伝子機能予測、病気との関連、生物の進化などについての新知見の獲得に、用いられていることです。情報科学と結合した新しい生物学が誕生し発展しつつあります。この新しい分野に対して、情報知識学会の多くの会員が関心をもっていると想像されます。そこで、本学会編集委員会では、「情報知識学会誌 Vol.10, No.4」を当該テーマについての特集号として企画しました。

2. 公募論文のテーマ

下記のテーマについて公募します。

- (a) ゲノムデータベース、(b) 遺伝子同定、(c) 分子進化
- (d) タンパク質の構造と機能予測、(e) 遺伝子発現、プロテオーム解析
- (f) 上記テーマに関連するソフトウェア・ツール等

投稿規定は、知識情報学会誌の投稿規定に準拠します。論文の長さは、刷り上がりで8~16頁とします。

3. 期限および原稿送付先

投稿原稿および修正原稿の締切りは下記のとおりです。

投稿原稿締切り: 2000年10月6日(金)
修正原稿締切り: 2000年11月1日(水)

4. 原稿送付先

照会ならびに原稿送付先は、下記までお願いいたします。

〒259-1293 平塚市土屋 2946 神奈川大学理学部 後藤智範
E-mail: gotoh@info.kanagawa-u.ac.jp
TEL: 0463-59-4111 FAX: 0463-58-9684

お知らせ

情報知識学会主催 「第5回SGML／XML研修フォーラム」

情報知識学会誌10巻1号でご案内した通り、標記フォーラムを今秋主催します。2日間の内容は、行政関連、学界、ベンダー系、ユーザー系（主としてEC関連）の4区分で各4名程度、14～16名の講師を予定しています。詳細プログラムは今夏、本学会のホームページに発表します。

(<http://angelos.info.kanagawa-u.ac.jp/jsik/main.html>)

毎回好評で本学会員も多数参加されています。（参加費は半額となります。）また、当学会員が紹介された一般のかたも割引（18,000円）で参加できますので、XMLにご関心のあるかたをお誘いください。申込受付は8月中旬からの予定です。前回は定員100名に対し150名のお申込がありました。先着順ですので、参加お申込はお早めにどうぞ。ご不明の点のご遠慮無く事務局へお問い合わせください。

開催日時：2000年10月25日（水）および26日（木）の2日間 9:30～16:30

予定会場：グランドヒル市ヶ谷（東京・市ヶ谷駅より徒歩3分）

講演内容：政府・自治体等公共的場面での動向と、民間企業の適用事例および対応製品の現況を総覧

参加特典：全講演の要旨を集録した情報知識学会誌特別号（3,000円）を、当日会場受付で差し上げます。

協賛団体：多数交渉中のため後日発表

参加費：一般 28,000円、地方自治体職員・国家公務員 18,000円

情報知識学会会員 14,000円、入会申込者（当日手続き可） 20,000円

協賛団体会員・リピーター 18,000円、学生 5,000円

問い合わせ先：情報知識学会事務局 〒110-8560 東京都台東区台東1-5 凸版印刷（株）内

TEL:03-3835-5692 FAX:03-3837-0368 E-mail:LDE01013@nifty.ne.jp

なお、前回の「第4回SGML／XML研修フォーラム」詳細は、下記ホームページの”シンポジウム”欄をご覧ください。

<http://angelos.info.kanagawa-u.ac.jp/jsik/main.html>

お知らせ「論文募集」

専門用語研究部会 第13回専門用語研究シンポジウム
— 発表論文募集 —

情報知識学会理事 後藤智範

趣旨: 本年5月の本学会の総会で専門用語研究会との統合が承認されました。専門用語研究会では、設立以来毎年秋にシンポジウムを開催し、昨年度まで12回行なわれました。従来は招待講演が中心でしたが、情報知識学会の研究会として新たに発足したことであり、本年度から5月の研究報告会と同様に研究発表を募集します。どうぞ奮ってご応募ください。

開催日: 平成12年11月11日(土)、 会場: 国立情報学研究所
13:30 - 17:30 を予定しています

1. 募集分野

専門用語ひいては「用語」に関連するテーマ全般を全て含みます。具体的には下記のテーマを挙げることができます。

- (1) 専門用語理論・モデル
- (2) 専門用語の組織化、分類(シソーラス、自動分類など)
- (3) 専門用語の標準化、各国の研究開発動向、その他
- (4) 辞書編纂、専門用語の翻訳(機械翻訳など)
- (5) 用語データベース/知識ベース、電子化辞書
- (6) 専門用語関連ソフトウェア

2. 発表申し込み方法

発表論文題目、著者名(連名の場合、発表者名に○印) 連絡代表者の氏名、連絡先の住所、TEL/FAX 番号、E-mail アドレスを明記の上、下記宛て、E-mail または FAX にてお申し込みください。

〒259-1293 平塚市土屋 2946 神奈川大学理学部 後藤智範

E-mail: gotoh@info.kanagawa-u.ac.jp、TEL:0463-59-4111、FAX: 0463-58-9684

申し込み期限: 平成12年9月15日

3. 論文執筆・発表等について

(1) 発表論文は2~8 ページ(A 4 判) にカメラレディの形で仕上げて、(a) プリント出力したものを郵便し、同時に、(b) その元ファイルを E-mail アドレスに添付ファイルの形態でお送りいただくことになります。

発表要旨の締め切り: 平成12年10月15日

(2) 発表時間は、質疑応答を含めて30分程度を予定しています(発表者数が確定次第、正確な時間をお知らせします)。

(3) 発表者は情報知識学会の会員に限ります(当日入会も可)。

なお、標記についての最新の情報は下記の URL をご参照ください。

<http://angelos.info.kanagawa-u.ac.jp/jsik/main.html>

お知らせ

「2001 年情報学シンポジウム」論文募集
-21 世紀の情報化社会・ネットビジネスを支える情報学／情報技術-

日本学術会議を中心に、情報知識学会をはじめ多くの学術研究団体の共同主催によるシンポジウムです。今回から既発表の論文も可となりました。当日の参加費は一般：15,000 円ですが、情報知識学会会員は 10,000 円です。

ネットビジネスの広がりによって代表されるような 21 世紀の情報化社会における情報の円滑な流通と高度な利用の促進を目的とする本シンポジウムは、1984 年以降毎年開催してまいりました。日本を代表する研究者・技術者を招いて、このテーマに沿っての講演をいただき、また一般公募の論文の発表も行ないます。毎年、多くの方に参加いただき、興味深い講演、発表にホットな議論が沸き立ち、情報、知識、ネットワーク、社会という多様な側面からの知見とアイデアの交換が行なわれてきました。本年度は、上記のテーマで招待講演をいただくとともに、以下の要領で論文を募集する運びとなりました。多数の論文の投稿をお待ちしております。

日時 平成 13 年 1 月 18 日 (木)・19 日 (金) 9:30 ～ 17:00
会場 日本学術会議講堂 (東京都港区)
共同主催 (予定) 日本学術会議 (情報学研究連絡会、情報工学研究連絡会)、
情報処理学会、人工知能学会、日本医学会、日本化学会、
日本数学会、日本地理学会、日本物理学会、情報知識学会、
日本生物物理学会、日本ソフトウェア科学会
後援 (予定) 科学技術振興事業団、化学情報協会、計測自動制御学会、
国立情報学研究所、情報科学技術協会、情報通信学会、
電子情報通信学会、日本医療情報学会、日本機械学会、
日本金属学会、日本原子力学会、日本材料科学会、
日本材料学会、日本社会情報学会、日本生化学会、
日本電信電話、日本動物学会、日本農学会、日本分子生物学会、
日本分析化学会、日本薬学会

論文募集要項

トピックス：インターネットの爆発的な発展とパソコンの驚異的な低価格化は、「いつでも、どこでも、だれでも」自分のパソコンで世界中の情報資源にアクセスして利用できる環境をつくり出した。そして、通信と計算機ハードウェアの高速化、大容量化の進展はとどまるところを知らない。この流れはネットビジネスの隆盛を迎えようとする 21 世紀の情報化社会における情報技術活用のインフラストラクチャーを提供するだろう。しかし、このような環境を活用するソフトウェアはまだまだ工夫の余地が大きい。ひとつには、情報技術に対する社会のニーズが技術開発側に十分知られていないこと、もうひとつは現在の情報技術の持つ可能性が社会的に認識されていないことがある。このような問題意識の下、本シンポジウムでは、情報技術の開発側と情報技術に期待する利用者側の両方から、技術的研究成果、情報技術の応用が期待される分野に関する幅広い論文を募集する。募集する論文は以下のトピックを中心とするが、本シンポジウムの主旨に沿うより広い範囲の論文投稿も歓迎する。

- (1) 21 世紀の社会において情報技術で解決したい問題
初等、中等教育における情報処理教育、情報技術の導入方法、
医療・福祉における情報技術、エンタテインメントにおける情報技術

- (2) ネットワークビジネスにおける情報技術
電子商取引、デジタルコンテンツ流通、Web マーケティング、
Web サーチエンジン、モバイル情報サービス、セキュリティ、XML など
- (3) 分野融合における情報技術
文理融合型の情報技術、電子図書館、電子博物館、農業の情報化、
異なるコミュニティ間の情報流通、言語横断型の情報技術
- (4) 21 世紀の情報化社会を支える基礎理論・技術
新しい情報モデル、知識構造、知能機構、情報検索・フィルタリング、
情報抽出・分類・体系化、情報可視化、データマイニングなど

なお、発表内容はシンポジウムの主旨の沿うものであれば既発表であっても構わない。

応募方法

ワープロで A4 用紙 8 枚以内の論文と、題目・概要・著者氏名(発表者には印をつける)・連絡先(必ず電子メールアドレスは記載のこと)・所属を明記した別紙を添えて下記に申し込むこと。なお、論文、別紙ともコピー 4 部を送付すること。また、別紙の内容をプレーンテキストの電子メールでプログラム委員長(メールアドレス: t-fukushima@cj.jp.nec.com)にも送ること。

スケジュール

- (1) 論文応募締切 平成 12 年 9 月 15 日(金) 必着
(本誌 6 月号での募集では 9 月 8 日としたが 1 週間遅らせた)
- (2) 採否通知 査読審査後、平成 12 年 10 月 17 日(火) までに発送
- (3) 最終原稿締切 平成 12 年 11 月 30 日(木)

なお、シンポジウムに関する最新情報は <http://clicks.to/sigfi2001/> に掲載する。また、シンポジウムの論文集は WWW での公開を予定している。

申込/照会先 (社) 情報処理学会 シンポジウム係

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル 7F

E-mail: sig@ipsj.or.jp Tel:03-5484-3535 Fax:03-5484-3534

参加費(予定) 共催学協会員:10,000 円、学生:3,000 円、一般:15,000 円

シンポジウム実行委員会: 情報処理学会 情報学基礎研究会

実行委員長: 中川 裕志(東京大学), E-mail:nakagawa@r.dl.itc.u-tokyo.ac.jp

プログラム委員長: 福島 俊一(NEC), E-mail:t-fukushima@cj.jp.nec.com